

トピック まなづるの海 夏の夜のお楽しみ、プランクトン観察会



プランクトンの顕微鏡観察の様子(左)、つかまえたプランクトンをペットボトルに入れてライトで照らして観察(右上)、カニの幼生(右下)

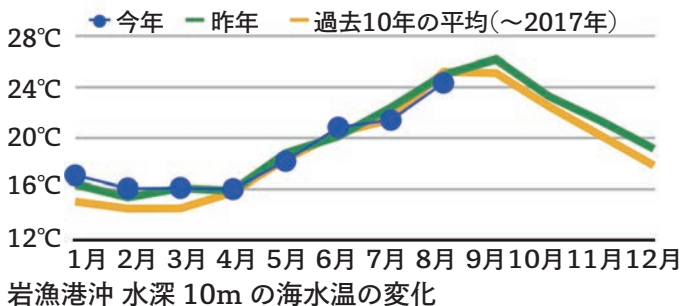
まなづる小学校の夏休みも終わりに近づいた8月下旬、真鶴町教育委員会の主催で夜のプランクトン観察会が行われました。この観察会は毎年夏休みに行われ、町内の児童と保護者のみなさんにご参加いただき、町立遠藤貝類博物館とディスカバーブルーが指導しています。

日が落ちて暗くなった岩漁港で、参加者のみなさん自身でプランクトンをつかまえてもらい、ペットボトルに入れて会場に持ち帰り、顕微鏡で観察しました。夜は、動物プランクトンを多く観察することができます。カニやエビ、貝類の幼生などが元気に動き回る様子が確認できました。3回開催した観察会のうち、ヤコウチュウが多くつかまった回では、その発光の様子も観察することができました。ヤコウチュウは春から秋にかけて大発生すると赤潮の原因となり、暗いところでは刺激を受けると青白く光ります。会場の照明を落としてペットボトルを揺らすと、青白いキラキラした光がボトルの中に見え、参加した子どもだけでなく、大人のみなさんからも「きれい!」「光った!」と歓声が聞こえていました。

最後のまとめでは、海の生態系におけるプランクトンの役割について学びました。植物プランクトンは光合成をして増殖しますが、それを動物プランクトンが食べ、動物プランクトンはシラスなどの小魚に食べられ、さらに大きなアジやブリへと食物連鎖がつながっています。真鶴でおいしいお魚が獲れるのも、プランクトンがたくさん暮らす豊かな海があってこそといえます。町の中心産業である漁業も、小さな小さなプランクトンに支えられています。

真鶴の海況 表面ぽかぽか、深場ひんやり、夏の海

8月の真鶴沖水深10mの水温は24.4℃で、前月よりも一気に3℃も上昇しました。涼しかった7月から一転、猛暑が続いた8月は、太陽の強い日差しに照らされて、海水が温められたようで、海の



表層では27.5℃まで上昇していました。夏の海は、水深の浅いところと深いところで温度差が大きいのが特徴で、表層は沖縄並みの暖かさですが、深くなると冷たくなっていきます。8月の調査では、水深20mで19.7℃となり、表層(27.5℃)と比べると10℃も低い水温でした。それ以深では、水温の低下はゆるやかになりますが、水深50mで14℃、100mで12℃まで下がりました。

冷たい水は重く、暖かい水は軽いので、表層が温かくて深場が冷たいと安定した状態となり、上下で混ざり合うことはほとんどありません。このような状態は、夏の海の典型的な水塊構造といえます。例年だと、台風などで海がかき混ぜられる機会もありますが、台風が少なく猛暑の続く今年、海水の構造も、もうしばらくは夏らしい状況が続くそうです。< 情報提供: 横浜国大 臨海環境センター >

まなづるの漁獲情報 資源管理休漁期間明け、連日サバ好調



限りある水産資源の持続可能な利用を目指す取り組みとして、神奈川県は資源管理指針を魚種や漁法ごとに策定しており、定置網漁では一定の休漁期間が設けられています。これに従い、真鶴町漁協の定置網は8月中旬の1週間にわたって休漁していました。

再開した定置網では、連日ゴマサバが大漁となりました。特に小型のゴマサバが多く、毎日10t以上の漁獲がありました。ほとんどがサバ節の原料となります。その中に紛れて、マサバも入ってきていました。ゴマサバもマサバも見かけはよく似ていますが、お腹のあたりに斑点模様が入っているのがゴマサバで、春から夏にかけて旬を迎えます。一方のマサバは、斑点は目立たず、秋から冬が旬です。ゴマサバよりマサバの方が美味しいとされることもあります。それぞれの旬の時期ならどちらも美味しいこと間違いなしだそうです。

今回のゴマサバの大群の中に混じっていたマサバは、季節外れにも関わらず脂がのっておすすめとのこと、しめ鯖にして一足お先の秋の味覚を美味しくいただきました。(サバは体内に寄生虫がいる可能性が高く生食は危険です。刺身やしめ鯖を作る際は十分にご注意ください。)< 情報提供: 真鶴町漁協 >

町立遠藤貝類博物館 9月中旬~10月のイベントスケジュール

- 9月19日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会 / 海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
 - 10月17日(土) 真鶴自然子どもクラブ「ミニ水族館をつくろう!」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、保険料50円】
 - 【10月2日(金) 展示開始】開館10周年記念特別展「遠藤晴雄と貝」
町立遠藤貝類博物館、【要入館料、真鶴・湯河原町民無料】
- ※各イベントの詳細は、町立遠藤貝類博物館 HP または各ちらしをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。プリントしていただいても構いません。配布歓迎です。